

2 市場別動向

主要国・地域全てが前年比プラスを記録
中国が前年比83.3%増で初の200万人の大台を突破

(1) 世界の旅行動向

世界観光機関（UNWTO）の発表によると、2014年の全世界の国際観光客到着数（日帰りを除く）は前年比4.3%増の11億3,300万人回を記録し、過去最高を記録した（表II-2-2）。アジア太平洋地域への到着数は全体の23.2%で、ヨーロッパに次いで2番目のシェアを占める。なかでも北東アジアは12.0%とアジア太平洋地域で最大のシェアを占めており、伸び率もトップだった。

出発側から見ても、アジア太平洋地域はヨーロッパに次いで2番目となっており、全体の23.7%を占める（表II-2-3）。前年比ではアメリカ地域に次いで高い伸び率を示しており、出発側、到着側ともにマーケットが拡大していることがうかがえる。

国際旅行支出額が最も多いのは中国で、12年以降1位の座についている（表II-2-1）。ロシアは2014年は前年比13.7%とプラスとなっているが、伸び率は2013年に比べ大幅に低下しており、順位も英国に抜かれ5位となった。

10位以下で2桁の伸びを示した国・地域の中にはスペイン、インド、台湾、フィリピン、タイなどが含まれる。

表II-2-1 国際旅行支出額上位10カ国・地域

順位	出発国・地域	国際旅行支出額 (USDル、10億円)		前年比 (自国通貨) (%)		一人当たり 支出額 (USDル)
		2013	2014*	13/12	14*/13	2014*
1位	中国	128.6	164.9	23.8	27.1	121
2位	米国	104.1	110.8	3.8	6.4	347
3位	ドイツ	91.4	92.2	5.7	0.9	1,137
4位	英国	52.7	57.6	3.5	3.8	893
5位	ロシア	53.5	50.4	28.9	13.7	351
6位	フランス	42.9	47.8	3.9	11.3	747
7位	カナダ	35.2	33.8	3.2	3.3	951
8位	イタリア	27.0	28.8	▲1.0	6.9	481
9位	豪州	28.6	26.3	9.4	▲1.7	1,114
10位	ブラジル	25.0	25.6	24.1	11.7	126

(注) 2014* : 暫定値 (2015年5月現在)

資料 : UNWTO 『Tourism Highlights 2015 Edition』

表II-2-2 国際観光客到着数 (到着地域別)

		国際観光客到着数 (百万人回)				シェア (%)	前年比 (%)		
		2005	2010	2013	2014*		12/11	13/12	14*/13
世界全体		809	949	1,087	1,133	100	4.2	4.6	4.3
到着地域	ヨーロッパ	453.0	488.9	566.4	581.8	51.4	3.9	4.9	2.7
	アジア太平洋	154.0	205.4	249.8	263.3	23.2	6.9	6.8	5.4
	北東アジア	85.9	111.5	127.0	136.3	12.0	6.0	3.4	7.3
	南東アジア	49.0	70.5	94.3	96.7	8.5	8.7	11.3	2.6
	オセアニア	10.9	11.4	12.5	13.2	1.2	4.2	4.6	5.7
	南アジア	8.1	12.0	16.0	17.1	1.5	5.9	11.4	6.8
	アメリカ	133.3	150.1	167.5	181.0	16.0	4.5	3.1	8.0
	アフリカ	34.8	49.5	54.4	55.7	4.9	4.8	4.7	2.4
	中東	33.7	54.7	48.4	51.0	4.5	▲5.3	▲3.1	5.4

(注) 2014* : 暫定値 (2015年5月現在)

資料 : UNWTO 『Tourism Highlights 2015 Edition』

表II-2-3 国際観光客到着数 (出発地域別)

		出発地域別国際観光客到着数 (百万人回)				シェア (%)	前年比 (%)	
		2005	2010	2013	2014*		13/12	14*/13
世界全体		809	949	1,087	1,133	100	4.6	4.3
出発地域	ヨーロッパ	452.2	497.4	559.8	575.0	50.8	4.1	2.7
	アジア太平洋	152.9	206.0	253.5	267.9	23.7	7.0	5.7
	アメリカ	136.7	156.3	176.4	189.2	16.7	3.1	7.2
	中東	21.0	33.3	35.2	37.0	3.3	11.1	5.2
	アフリカ	19.3	28.1	32.1	33.2	2.9	2.3	3.4
不明		26.7	27.3	29.6	30.4	2.7	—	—

(注) 2014* : 暫定値 (2015年5月現在)

資料 : UNWTO 『Tourism Highlights 2015 Edition』

(2) 市場別動向

過去最高の訪日客数を更新した14年を市場別に見ると、主要全18カ国・地域全てで前年プラスとなった(表Ⅱ-2-4)。さらに、英国とロシアを除いた16カ国・地域で過去最高の訪日客数を記録した。

国・地域別で最も旅行者数が多かったのは台湾で、次いで韓国、中国、香港、米国、タイと続いた。これまでは韓国が長年にわたり最大のシェアを占めてきたが、14年4月の旅客船セウォル号沈没事故などが影響して上期は低迷が続いた。年間を通じて順調に旅行者数を伸ばした台湾が1998年以来16年ぶりに首位に返り咲いた。

韓国も下期は回復に転じ、年間で見ると前年比12.2%増で2位となった。中国は12～13年にかけては尖閣諸島問題などで停滞が続いていたが、14年は訪日旅行控えからの反動増が見られたほか、航空便の新規就航などが相次ぎ、前年比83.3%の大幅増となり、初めて200万人の大台を突破、台湾と韓国に迫る勢いを示した。

15年に入っても訪日外国人旅行市場の勢いは継続している。中東呼吸器症候群(MERS)の感染拡大で訪日韓国人旅行者数の減少が懸念されたが、15年6月時点ではさほど大きな影響は見られていない。一方で、韓国を訪れる外国人は大幅に減

少しており、韓国から日本への旅行先の振り替えが起こったことも好調の背景にあると見られる。

東南アジアの成長も目覚ましい。特にここ数年でビザ免除・発給要件緩和策が相次いだタイ、マレーシア、フィリピン、ベトナムは著しい成長が続いている。なかでも14年9月に数次ビザの発給要件緩和となった3カ国のうち、フィリピン、ベトナムはそれぞれ前年比70.0%増、47.1%増と大幅な伸びを示している。特にフィリピンからこれまで最も多くの旅行者数が訪れたのは04～05年であったが、当時は興行目的での訪日が多くを占めていたのに対し、現在は観光目的で訪れる旅行者の割合が多くを占めており、市場の構造は大きく変化した。

同時期に数次ビザの発給要件緩和となった3カ国の中でインドネシアはルピア安が影を落としてフィリピン、ベトナムほどの伸びは見せなかったものの、2桁増で増加の兆しを見せている。

15年に入っても勢いは継続しており、引き続き東南アジアに注目が集まっている。欧米やオーストラリアなどアジア以外も好調に推移している。

唯一、主要国・地域の中でプラス幅が1桁にとどまったロシアは、ルーブル安やロシア経済の低迷が影を落としている。低迷は15年に入っても継続しており、14年12月以降のロシア人旅行者数は前年割れが続いている。

表Ⅱ-2-4 訪日外客数の推移(国・地域別)

(単位:万人)

(単位:%)

	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015 上期	2014/ 2013年比	15上期/ 14上期比	
訪日外客数全体	672.8	733.4	834.7	835.1	679.0	③861.1	621.9	835.8	②1036.4	①1341.3	914.0	29.4	46.0	
東 ア ジ ア	台湾	127.5	130.9	138.5	139.0	102.4	126.8	99.4	③146.6	②221.1	①283.0	179.3	28.0	28.9
	韓国	174.7	211.7	②260.1	238.2	158.7	244.0	165.8	204.3	③245.6	①275.5	181.9	12.2	42.6
	中国	65.3	81.2	94.2	100.0	100.6	③141.3	104.3	②142.5	131.4	①240.9	217.9	83.3	116.3
	香港	29.9	35.2	43.2	③55.0	45.0	50.9	36.5	48.2	②74.6	①92.6	69.2	24.1	64.2
東 南 ア ジ ア	タイ	12.0	12.6	16.7	19.2	17.8	21.5	14.5	③26.1	②45.4	①65.8	42.4	45.0	28.1
	マレーシア	7.8	8.6	10.1	10.6	9.0	11.5	8.2	③13.0	②17.7	①25.0	13.4	41.4	15.0
	シンガポール	9.4	11.6	15.2	16.8	14.5	③18.1	11.1	14.2	②18.9	①22.8	13.0	20.4	32.7
	フィリピン	②14.0	9.6	9.0	8.2	7.1	7.7	6.3	8.5	③10.8	①18.4	13.9	70.0	50.9
	インドネシア	5.9	6.0	6.4	6.7	6.4	8.1	6.2	③10.1	②13.7	①15.9	9.7	16.0	28.3
	ベトナム	2.2	2.6	3.2	3.5	3.4	4.2	4.1	③5.5	②8.4	①12.4	9.4	47.1	58.4
欧 米 ・ そ の 他	インド	5.9	6.3	6.8	6.7	5.9	6.7	5.9	③6.9	②7.5	①8.8	5.1	17.1	17.6
	米国	②82.2	③81.7	81.6	76.8	70.0	72.7	56.6	71.7	79.9	①89.2	50.7	11.6	13.6
	カナダ	15.0	15.7	③16.6	②16.8	15.3	15.3	10.1	13.5	15.3	①18.3	11.1	19.7	28.4
	英国	②22.2	21.6	①22.2	20.7	18.1	18.4	14.0	17.4	19.2	③22.0	12.2	14.7	16.8
	フランス	11.1	11.8	13.8	14.8	14.1	③15.1	9.5	13.0	②15.5	①17.9	10.1	15.3	22.7
	ドイツ	11.8	11.5	③12.5	②12.6	11.1	12.4	8.1	10.9	12.2	①14.0	7.7	15.2	15.3
	ロシア	6.4	6.1	②6.4	①6.6	4.7	5.1	3.4	5.0	6.1	③6.4	2.6	5.9	▲17.5
	オーストラリア	20.6	19.5	22.3	③24.2	21.2	22.6	16.3	20.6	②24.5	①30.3	19.0	23.8	22.3
	その他	49.0	49.3	56.0	58.6	53.8	58.7	41.5	57.7	68.7	82.3	45.6	19.8	21.4

(注) ①②③は2005～2014年の中で旅行者数が多い年の順位を示す。
2015上期の値は暫定値

資料: 日本政府観光局(JNTO)

訪日外国人旅行消費額が最も多いのは中国で、次いで台湾、韓国、米国、香港の順となっている(表II-2-5)。特に中国の1人当たり旅行支出額は東アジア地域の中で突出しており、旅行者数も大幅に増加したことから、旅行消費額は5,000億円を突破、市場全体の約1/4のシェアを占めた。なかでも買物代は他の国・地域と大きな開きを見せていることから、14年10月の消費税免税制度改正の効果が消費を促進したものと見られる。

また、近年旅行者数の増加が目立つ東南アジアは旅行消費額でも存在感を強めている。タイ、マレーシア、シンガポールを合わせた東南アジア3カ国の旅行消費額は前年比46.9%増の1,678億円に上り、14年は米国の旅行消費額1,475億円を抜く規模にまで拡大した。

一方、ロシアは主要国・地域の中でも1人当たりの旅行支出

がベトナム、中国、オーストラリアに次いで高い水準にあるが、14年は経済の低迷が支出にも影を落としたのか、1人当たりの旅行支出は前年を下回った。

買物に着目し、費目別の購入率および購入者単価を見ると、14年10月の消費税免税制度改正で新たに対象品目となった費目が上位5位のうち、1位、2位、4位、5位を占めている(表II-2-6)。

全ての国・地域中最も購入率が高い「菓子類」は、アジアで特に人気が高い傾向にある。2位の「その他食料品・飲料・酒・たばこ」は欧米で高い傾向がある。3位の「服(和服以外)・かばん・靴」は香港が最も高い購入率となっている。4位の「化粧品・香水」の購入率は中国が突出して高い。5位の「医薬品・健康グッズ・トイレタリー」は、台湾、中国、香港で購入率が高い傾向にある。

表II-2-5 費目別旅行支出額および訪日外国人旅行消費額(国・地域別、2014年)

(単位:円/人)

(単位:億円)

国籍・地域	旅行支出 総額	宿泊料金	飲食費	交通費	娯楽 サービス費	買物代	その他	訪日外国人 旅行消費額
全国籍・地域	151,174	45,471	32,140	16,259	3,464	53,278	564	20,278
韓国	75,852	24,820	19,147	9,112	2,371	20,137	265	2,090
台湾	125,248	37,021	25,267	12,568	3,598	46,501	292	3,544
香港	147,958	45,937	31,747	15,361	3,181	51,584	148	1,370
中国	231,753	44,661	39,483	15,668	2,812	127,443	1,687	5,583
タイ	146,029	40,803	28,358	14,899	5,494	56,133	341	960
シンガポール	155,792	52,619	38,897	15,555	2,984	45,485	252	355
マレーシア	145,466	46,990	28,105	18,422	3,642	47,500	805	363
インドネシア	119,884	37,301	21,840	18,582	3,673	37,563	924	190
フィリピン	105,284	30,986	26,866	11,284	2,134	34,011	4	194
ベトナム	237,688	63,739	54,361	23,725	5,596	88,814	1,452	295
インド	167,530	62,668	47,536	26,225	2,178	28,884	40	147
英国	187,239	81,094	46,360	28,562	3,793	27,087	341	412
ドイツ	148,774	65,762	33,884	24,577	3,422	21,095	33	209
フランス	194,685	77,827	45,677	33,052	4,864	33,233	32	348
ロシア	201,588	68,779	40,296	20,544	8,884	63,056	28	129
米国	165,281	71,783	42,343	24,481	3,564	22,905	306	1,475
カナダ	170,599	71,496	40,963	24,902	4,334	28,748	155	312
オーストラリア	227,823	93,484	52,308	33,755	7,614	39,082	1,580	690
その他	195,795	73,255	50,652	28,763	4,782	38,193	150	1,611

資料:観光庁『訪日外国人消費動向調査26年次報告書』

表II-2-6 費目別購入率および購入者単価(主要国・地域別)

全国籍 購入率 順位	費目	全国籍・地域		韓国		台湾		香港		中国		米国		タイ	
		購入率 (%)	購入者 単価(円)												
1位	菓子類	63.6	9,779	70.2	5,342	75.3	10,122	64.2	10,527	76.5	13,345	32.1	6,186	72.9	16,623
2位	その他食料品・飲料・酒・たばこ	51.7	11,464	51.3	7,094	53.1	8,722	51.2	11,504	54.9	15,025	46.3	13,881	44.9	14,135
3位	服(和服以外)・かばん・靴	37.2	32,343	24.2	18,675	43.3	24,058	59.5	34,159	44.5	55,397	20.0	18,062	43.6	35,804
4位	化粧品・香水	31.9	22,312	24.7	9,577	31.9	14,162	37.0	14,432	62.8	37,315	5.0	10,995	49.7	19,353
5位	医薬品・健康グッズ・トイレタリー	31.8	18,341	19.2	9,098	61.3	16,883	43.2	10,955	50.2	29,283	5.3	6,628	14.5	10,181
6位	和服(着物)・民芸品	14.0	12,538	6.0	5,559	10.8	9,313	12.2	18,406	11.5	14,228	26.4	16,461	12.6	15,138
7位	電気製品	13.5	40,942	3.5	25,528	11.8	29,450	8.8	18,016	36.7	55,985	5.1	17,819	9.9	15,038
8位	マンガ・アニメ・キャラクター関連商品	12.0	10,967	9.8	8,488	14.6	10,729	16.0	10,886	13.7	12,757	9.9	8,275	9.3	13,530

(注) 太字は2014年10月の消費税免税制度改正で新たに対象品目となった費目

資料:観光庁『訪日外国人消費動向調査26年次報告書』

(3) 主要国・地域の動向

①台湾

台湾人出国者数は年々増加傾向が続いており、14年は1,184万人に上った(表II-2-8)。過去5年間の方面別旅行先の第1位は中国が占めている(表II-2-9)。日本は、10年は中国、香港に次いで3位であり、11年は東日本大震災の影響で旅行者数が大きく減少したものの、方面別で3位を維持していた。その後、日本を訪れる台湾人旅行者数は大幅に増加し続け、13年には香港を抜いて2位にランクアップ、14年は1位の中国との差を縮める勢いで増加を続けている。

14年は訪日台湾人の観光レジャー比率は81.3%と前年より2.1%アップとなっている。また、訪日2回目以上のリピーター比率は76.7%に上り、前年よりわずかに増加した(表II-2-7)。

旅行形態を見ると、台湾人旅行者はツアー利用率が高い傾向にあり、14年も半数超をツアー利用が占める。

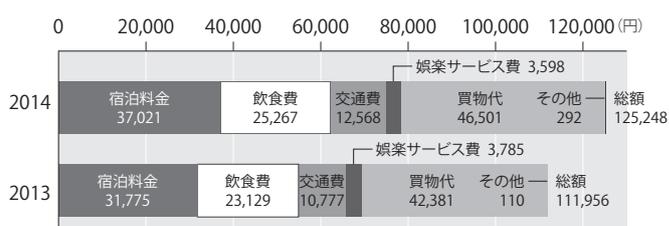
訪日台湾人旅行者の1人当たりの旅行支出は前年より13,292円増の125,248円に上る(図II-2-1)。特に宿泊料金、買物代の増加が目立つ。

表II-2-7 訪日台湾人の旅行動向

	2013	2014	前年比
訪日台湾人旅行者数(万人)	221	283	28.0%
平均泊数(泊)	6.4	6.8	0.4
観光レジャー比率	79.2%	81.3%	2.1%
リピーター率	76.3%	76.7%	0.4%
ツアー利用率*1	51.9%	54.1%	—

資料：観光庁『訪日外国人消費動向調査25年、26年次報告書』
(*1) ツアー利用率は全体から個別手配を除いた比率、2013年と2014年では設問形式が異なる

図II-2-1 訪日台湾人の1人当たりの旅行支出



資料：観光庁『訪日外国人消費動向調査25年、26年次報告書』

表II-2-8 台湾基本情報

	2005	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2020
①人口(万人)*1	2,277	2,316	2,323	2,332	2,337	2,343	2,349	2,380
②台湾人出国者数(万人)*2	821	942	958	1,024	1,105	1,184	—	—
③出国率(%) (②÷①)	36.0	40.6	41.3	43.9	47.3	50.5	—	—
④訪日台湾人旅行者数(万人)*3	127.5	126.8	99.4	146.6	221.1	283.0	—	—
⑤出国者に占める訪日旅行者比率(④÷②)	15.5	13.5	10.4	14.3	20.0	23.9	—	—
⑥為替レート(円/台湾ドル)*1,*4	3.4	2.8	2.7	2.7	3.3	3.5	3.9	—
⑦GDP成長率(%)*1	5.4	10.6	3.8	2.1	2.2	3.7	3.8	4.2
⑧1人当たりGDP(米ドル)*1	16,503	19,262	20,912	21,270	21,874	22,598	22,464	32,607
⑨中間所得層比率(%)*5	81.4	79.0	74.3	73.9	—	—	—	—
⑩高所得層比率(%)*5	41.4	45.3	51.5	52.0	—	—	—	—

(注1) 斜体は推計値、(注2) ⑥為替レートの2015年の数値は2015年1～6月の平均値

資料：IMF(*1)、台湾交通部観光局(*2)、JNTO(*3)、FRB(*4)、Euromonitor(*5)

表II-2-9 方面別台湾人旅行者数

	2010			2011			2012			2013			2014		
	国・地域	人数(万人)	前年比(%)												
1位	中国	242.4	59.9	中国	284.7	17.4	中国	313.9	10.3	中国	307.2	▲2.1	中国	326.7	6.3
2位	香港	230.9	2.1	香港	215.7	▲6.6	香港	202.1	▲6.3	日本	234.6	50.4	日本	297.2	26.7
3位	日本	137.8	23.7	日本	113.6	▲17.5	日本	156.0	37.3	香港	203.9	0.9	香港	201.8	▲1.0
4位	マカオ	66.8	▲9.7	マカオ	58.8	▲12.0	韓国	53.3	25.9	韓国	51.9	▲2.7	韓国	62.7	20.9
5位	米国	43.6	5.0	韓国	42.3	4.2	マカオ	52.7	▲10.3	マカオ	51.5	▲2.3	マカオ	49.3	▲4.2

(注) 出発地側の発表データであり、到着地側が公表している各国の到着者数とは一致しない。

資料：台湾交通部観光局

②韓国

韓国人出国者数は年々増加傾向にあり、14年の出国率は31.9%に上る(表II-2-12)。方面別で見ると、中国を訪れる韓国人旅行者数は12年、13年と減少傾向にある。一方で、日本や台湾、フィリピン、タイといった国・地域への訪問者数は大きく増加しており、訪問先の傾向に変化が見られる(表II-2-11)。

訪日旅行市場においては、主要国・地域の中で最大のシェアを占めていた韓国であったが、14年4月の旅客船セウォル号沈没事故などが影響し、14年上期は前年割れとなった。14年後半は徐々に回復し、上期の低迷が響いたことで年間を通じては台湾を下回ったものの、過去最高を記録した(表II-2-4)。

訪日韓国人の平均泊数は主要市場の中で最も短く6.0泊で、13年よりさらに0.5泊短くなった。訪日韓国人の訪日目的は親族訪問およびビジネス比率が比較的高く、観光レジャー比率は低い傾向にあったが、14年は13年に比べ6.4%アップし、62.3%となった(表II-2-10)。

訪日回数が2回目以上のリピーター率は香港、台湾に次いで3番目に高い傾向にあるが、14年は前年比1.1%増の71.9%となり、さらに多くのリピーターが日本を訪れた(表II-2-10)。

訪日韓国人旅行者は個別手配で訪れる比率が高い傾向にあり、14年のツアー利用率は27.2%にとどまっている(表II-2-10)。

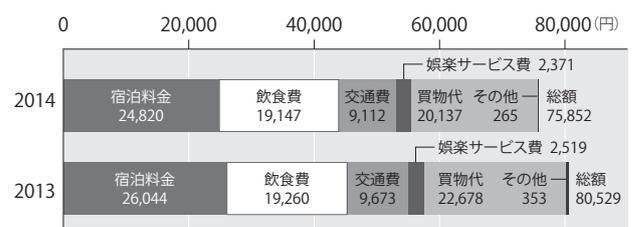
訪日韓国人旅行者の1人当たり旅行支出額は主要国・地域中最も低い7.6万円である(図II-2-2)。3日以内の短期滞在が37.5%を占めることから旅行支出は低い。1人当たりの旅行支出額が低いため、旅行消費額は中国、台湾に次ぎ3番目となっている(表II-2-5)。

表II-2-10 訪日韓国人の旅行動向

	2013	2014	前年比
訪日韓国人旅行者数(万人)	246	276	12.2%
平均泊数(泊)	6.5	6.0	▲0.5
観光レジャー比率	56.0%	62.3%	6.4%
リピーター率	70.8%	71.9%	1.1%
ツアー利用率*1	32.9%	27.2%	—

資料：観光庁『訪日外国人消費動向調査25年、26年次報告書』
(*1) ツアー利用率は全体から個別手配を除いた比率、2013年と2014年では設問形式が異なる

図II-2-2 訪日韓国人の1人当たりの旅行支出



資料：観光庁『訪日外国人消費動向調査25年、26年次報告書』

表II-2-11 アジア各国・地域への韓国人訪問者数 (単位：万人)

訪問先	基準	2010	2011	2012	2013
日本	NFV	244.0	165.8	204.3	245.6
台湾	RFV	21.7	24.3	25.9	35.1
中国	NFV	407.6	418.5	407.0	396.9
香港	RFV	89.1	102.1	107.8	108.4
フィリピン	RFT	74.1	92.5	103.1	116.6
ベトナム	RFV	49.6	53.6	70.1	74.9
カンボジア	RFT	29.0	34.3	41.1	43.5
タイ	NFT	80.5	100.6	116.4	129.5
マレーシア	NFV	26.4	26.3	28.4	27.5
シンガポール	RFV	36.1	41.5	44.5	47.2
インドネシア	RFT	27.5	30.6	31.2	32.5

資料：日本政府観光局(JNTO)『日本の国際観光統計(2013)』
(注) [N]国籍別統計、[R]居住地別統計、
[F]国境到着者数/[V]日帰りを含む旅行者数、[T]宿泊を伴った旅行者数

表II-2-12 韓国基本情報

	2005	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2020
①人口(万人)*1	4,814	4,941	4,978	5,000	5,022	5,042	5,064	5,174
②韓国人出国者数(万人)*2	1,008	1,249	1,269	1,374	1,485	1,608	—	—
③出国率(%) (②÷①)	20.9	25.3	25.5	27.5	29.6	31.9	—	—
④訪日韓国人旅行者数(万人)*3	174.7	244.0	165.8	204.3	245.6	275.5	—	—
⑤出国者に占める訪日旅行者比率(④÷②)	17.3	19.5	13.1	14.9	16.5	17.1	—	—
⑥為替レート(100円/ウォン)*1	10.8	7.6	7.2	7.1	8.9	10.0	10.9	—
⑦GDP成長率(%)*1	3.9	6.5	3.7	2.3	3.0	3.3	3.3	3.7
⑧1人当たりGDP(米ドル)*1	18,658	22,151	24,156	24,454	25,975	28,101	28,338	38,880
⑨中間所得層(5,000~35,000米ドル)比率(%)*4	87.9	87.0	84.0	83.6	—	—	—	—
⑩高所得層(35,000米ドル以上)比率(%)*4	33.8	35.4	41.0	41.7	—	—	—	—

(注1) 斜体は推計値、(注2) ⑥為替レートの2015年の数値は2015年1~6月の平均値

資料：IMF(*1)、KTO(*2)、JNTO(*3)、Euromonitor(*4)

③中国

中国人出国者数は、14年はついに1億人を突破した(表2-14)。大きく旅行者数を伸ばす中で、低迷が続いていた訪日中国人旅行者数も14年は大幅に増加し、初めて200万人を突破した。方面別に日本の位置づけを見ると、10年は香港、マカオに次ぐ3番目に人気の旅行先だったが、東日本大震災の影響で11年は5位にランクを落とした(表II-2-15)。その後、旅行者数は回復したが、12年は順位は6位に、13年は7位にダウンした。

日本が順位を落とす中、中国人旅行者が新たに目を向けたのは韓国、台湾、タイといった、同じアジアの国・地域である。いずれも中国人に対し相次いでビザ発給要件緩和などの措置を講じたことで大幅に中国人の訪日を促進した。

訪日中国人旅行者数は尖閣諸島問題で一時低迷していたが、14年は前年比83.3%増と回復した(表II-2-13)。航空路線の拡大もあり、15年1～6月はそれを上回る前年同期比116.3%増とさらに勢いを増しており、主要国・地域中トップの位置に躍り出た(表II-2-4)。

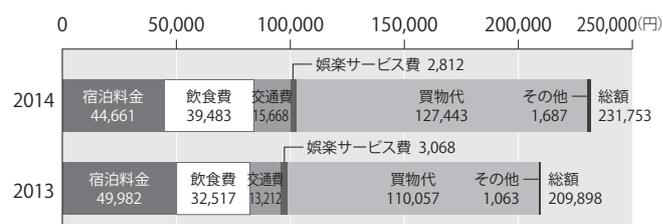
訪日中国人旅行者の1人当たりの旅行支出は主要国・地域の中ではベトナムに次いで2番目に高い231,753円に上る(表II-2-5)。特に買物費が突出して高く、全体の55.0%を占めている。中国人の旅行消費額は主要国・地域中最も多い5,583億円に上り、全体の約1/4のシェアを占める。

表II-2-13 訪日中国人の旅行動向

	2013	2014	前年比
訪日中国人旅行者数(万人)	131	241	83.3%
平均泊数(泊)	19.8	18.6	▲1.2
観光レジャー比率	39.9%	55.1%	15.2%
リピーター率	50.9%	44.2%	▲6.7%
ツアー利用率*1	29.9%	44.1%	—

資料：観光庁『訪日外国人消費動向調査25年、26年次報告書』
(*1) ツアー利用率は全体から個別手配を除いた比率。2013年と2014年では設問形式が異なる

図II-2-3 訪日中国人の1人当たりの旅行支出



資料：観光庁『訪日外国人消費動向調査25年、26年次報告書』

表II-2-14 中国基本情報

	2005	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2020
①人口(万人)*1	130,756	134,091	134,735	135,404	136,072	136,782	137,496	141,121
②中国人出国者数(万人)*2	3,055	5,739	7,025	8,318	9,819	11,664	—	—
③出国率(%) (②÷①)	2.3	4.3	5.2	6.1	7.2	8.5	—	—
④訪日中国人旅行者数(万人)*3	65.3	141.3	104.3	142.5	131.4	240.9	—	—
⑤出国者に占める訪日旅行者比率(④÷②)	2.1	2.5	1.5	1.7	1.3	2.1	—	—
⑥為替レート(円/人民元)*1	13.5	13.0	12.3	12.6	15.8	17.2	19.6	—
⑦GDP成長率(%) *1	11.3	10.4	9.3	7.8	7.8	7.4	6.8	6.3
⑧1人当たりGDP(米ドル)*1	1,749	4,437	5,429	6,194	6,959	7,589	8,154	11,449
⑨中間所得層(5,000～35,000米ドル)比率(%) *4	17.2	49.8	57.4	61.7	—	—	—	—
⑩高所得層(35,000米ドル以上)比率(%) *4	0.5	2.5	3.5	4.3	—	—	—	—

(注1) 斜体は推計値、⑥為替レートの2015年の数値は2015年1～6月の平均値

資料：IMF(*1)、中国国家旅游局(*2)、JNTO(*3)、Euromonitor(*4)

表II-2-15 方面別中国人旅行者数

2010				2011				2012				2013			
	国・地域	人数(万人)	前年比(%)												
1位	香港	2,309.9	23.7	1位	香港	2,832.1	22.6	1位	香港	3,495.6	23.4	1位	香港	4,030.3	15.3
2位	マカオ	1,611.2	6.5	2位	マカオ	1,976.5	22.7	2位	マカオ	2,150.3	8.8	2位	マカオ	2,523.9	17.4
3位	日本	196.9	26.8	3位	韓国	236.8	20.3	3位	韓国	299.5	26.5	3位	韓国	425.3	42.0
4位	韓国	196.9	33.5	4位	台湾	184.5	11.0	4位	台湾	263.0	42.6	4位	タイ	401.0	78.7
5位	台湾	166.2	68.6	5位	日本	162.8	▲17.3	5位	タイ	224.5	47.4	5位	台湾	291.9	11.0
								6位	日本	196.2	20.5	7位	日本	183.5	▲6.5

(注) 出発地側の発表データであり、到着地側が公表している各国の到着者数とは一致しない。

資料：中国国家旅游局『中国旅游業統計公報』

④米国

米国人出国者数は08年のリーマン・ショック以降、減少が続いていたが、11年に底を打って以降は上昇に転じ、14年はリーマン・ショック前を上回る水準まで回復した。方面別旅行先ではメキシコ、カナダが10年以降トップの座を占めている(表II-2-17・18)。アジアでは、10年の時点では日本は中国に次いで2位であった。11年はインド、香港に抜かれ4位に下がったが、12年は香港を抜いて3位となった。依然2位のインドとの差は大きい。

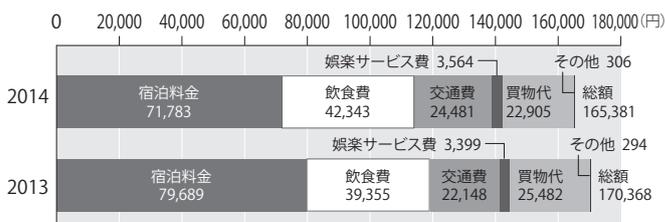
訪日米国人旅行者数は、05年に過去最高の82.2万人を記録して以降、07年までは80万人台で推移してきたが、08年のリーマン・ショックを機に80万人割れが続いた(表II-2-4)。12年以降は上昇に転じ、14年は7年ぶりに80万人台へ復帰、過去最高を記録した。米国の旅行消費額は1,475億円で、こちらも旅行者数の増加に伴い、10年調査開始以降最高となった(表II-2-5)。

表II-2-16 訪日米国人の旅行動向

	2013	2014	前年比
訪日米国人旅行者数(万人)	80	89	11.6%
平均泊数(泊)	15.3	13.8	▲1.6
観光レジャー比率	28.4%	31.9%	3.6%
リピーター率	56.1%	56.0%	▲0.1%
ツアー利用率*1	7.3%	9.7%	—

資料：観光庁「訪日外国人消費動向調査25年、26年次報告書」
(*1) ツアー利用率は全体から個別手配を除いた比率。2013年と2014年では設問形式が異なる

図II-2-4 訪日米国人の1人当たり旅行支出



資料：観光庁「訪日外国人消費動向調査25年、26年次報告書」

表II-2-17 米国基本情報

	2005	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2020
①人口(万人)*1	29,612	30,976	31,208	31,440	31,674	31,905	32,124	33,219
②米国人出国者数(万人)*2	3,837	3,735	3,601	3,787	3,900	4,112	—	—
③出国率(%) (②÷①)	13.0	12.1	11.5	12.0	12.3	12.9	—	—
④訪日米国人旅行者数(万人)*3	82.2	72.7	56.6	71.7	79.9	89.2	—	—
⑤出国者に占める訪日旅行者比率(④÷②)	2.1	1.9	1.6	1.9	2.0	2.2	—	—
⑥為替レート(円/米ドル)*1	110.2	87.8	79.8	79.8	97.7	105.6	120.3	—
⑦GDP成長率(%)*1	3.3	2.5	1.6	2.3	2.2	2.4	3.1	2.0
⑧1人当たりGDP(米ドル)*1	44,218	48,309	49,725	51,409	52,939	54,597	56,421	67,697
⑨中間所得層(5,000~35,000米ドル)比率(%)*4	44.3	39.0	38.7	37.9	—	—	—	—
⑩高所得層(35,000米ドル以上)比率(%)*4	69.6	73.8	73.9	74.5	—	—	—	—

資料：IMF(*1)、U.S. Department of Commerce, International Trade Administration(*2)、JNTO(*3)、Euromonitor(*4)
(注1) 斜体は推計値、(注2) ⑥為替レートの2015年の数値は2015年1~6月の平均値

表II-2-18 方面別米国人旅行者数

2010				2011				2012				2013			
順位	国・地域	人数(万人)	前年比(%)												
1位	メキシコ(空路のみ)	538.0	2	1位	メキシコ(空路のみ)	553.7	3	1位	メキシコ(空路のみ)	577.2	4	1位	メキシコ(空路のみ)	621.9	8
2位	カナダ(空路のみ)	346.5	6	2位	カナダ(空路のみ)	345.1	0	2位	カナダ(空路のみ)	359.6	4	2位	カナダ(空路のみ)	377.0	5
3位	英国	236.6	▲13	3位	英国	240.5	2	3位	英国	253.7	5	3位	英国	264.0	4
4位	ドミニカ共和国	179.6	23	4位	フランス	175.6	1	4位	ドミニカ共和国	225.2	34	4位	フランス	200.2	▲1
5位	フランス	173.9	▲9	5位	イタリア	170.2	▲2	5位	フランス	202.4	15	5位	イタリア	179.9	▲7
	イタリア		▲6										ジャマイカ		19
10位	日本	119.7	▲21	17位	日本	59.5	▲50	12位	日本	85.5	44	11位	日本	81.2	▲5

アジア

2010				2011				2012				2013			
順位	国・地域	人数(万人)	前年比(%)	順位	国・地域	人数(万人)	前年比(%)	順位	国・地域	人数(万人)	前年比(%)	順位	国・地域	人数(万人)	前年比(%)
1位	中国	125.4	6	1位	中国	110.8	▲12	1位	中国	114.0	3	1位	中国	113.2	▲1
2位	日本	119.7	▲21	2位	インド	94.6	23	2位	インド	94.1	▲1	2位	インド	104.5	11
3位	インド	77.0	▲27	3位	香港	67.6	▲5	3位	日本	85.5	44	3位	日本	81.2	▲5
4位	香港	71.3	▲10	4位	日本	59.5	▲50	4位	香港	62.7	▲7	4位	韓国	58.0	7
5位	韓国	59.9	▲10	5位	台湾	51.3	0	5位	フィリピン	59.9	17	5位	フィリピン	58.0	▲3
					フィリピン		39								

(注) 出発地側の発表データであり、到着地側が公表している各国の到着者数とは一致しない。資料：U.S. Department of Commerce, International Trade Administration, National Travel & Tourism Office

⑤香港

香港人出国者数は年々増加が続いている(表Ⅱ-2-21)。その大半を中国が占めているが、13年は中国を訪れる香港人旅行者数は減少した。一方で、台湾やタイなどへの旅行者数がここ数年増加傾向にある(表Ⅱ-2-20)。

訪日香港人旅行者数も順調に増加しており、2014年は過去最高の92.6万人に上った(表Ⅱ-2-21)。

訪日香港人旅行者の特徴としては観光レジャー比率が高いこと、またリピーター比率が高いことが挙げられる(表Ⅱ-2-19)。14年はさらにその傾向が強まり、観光レジャー比率は前年比0.6%増の88.5%に上った。訪日2回目以上のリピーター率は主要国・地域中最高に傾向にあり、14年は前年を1.3%上回る82.2%となり、ほぼリピーターが占める結果となった。

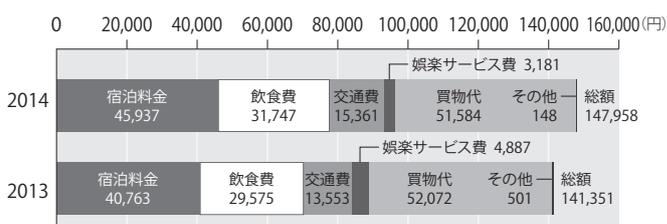
訪日香港人旅行者の1人当たりの旅行支出は147,958円に上り、東アジアでは中国に次いで高い水準となっている(図Ⅱ-2-5)。13年と比較して宿泊料金の増加が目立つ。訪日香港人旅行者で人気が高いのは「服(和服以外)・かばん・靴」で主要国・地域中最高、購入率は59.5%に上る(表Ⅱ-2-6)。

表Ⅱ-2-19 訪日香港人の旅行動向

	2013	2014	前年比
訪日香港人旅行者数(万人)	75	93	24.1%
平均泊数(泊)	5.9	5.7	▲0.2
観光レジャー比率	87.9%	88.5%	0.6%
リピーター率	81.0%	82.2%	1.3%
ツアー利用率*1	44.8%	51.7%	—

資料：観光庁『訪日外国人消費動向調査25年、26年年次報告書』
(*1) ツアー利用率は全体から個別手配を除いた比率、2013年と2014年では設問形式が異なる

図Ⅱ-2-5 訪日香港人の1人当たりの旅行支出



資料：観光庁『訪日外国人消費動向調査25年、26年年次報告書』

表Ⅱ-2-20 アジア各国・地域への香港人訪問者数 (単位：万人)

訪問先	基準	2010	2011	2012	2013
日本	NFV	50.9	36.5	48.2	74.6
韓国	NFV	22.9	28.1	36.0	40.0
台湾	RFV	79.4	81.8	101.6	118.3
中国	NFV	7,932.2	7,935.8	7,871.3	7,688.5
フィリピン	RFT	13.4	11.2	11.9	12.6
ベトナム	RFV	—	—	1.3	1.0
カンボジア	RFT	0.4	0.5	0.8	0.9
タイ	NFT	31.6	41.2	47.4	58.8
マレーシア	NFV	—	—	—	—
シンガポール	RFV	38.8	46.4	47.2	54.0
インドネシア	RFT	7.8	8.7	9.1	8.7

資料：日本政府観光局(JNTO)『日本の国際観光統計(2013)』
(注) [N]国籍別統計、[R]居住地別統計、
[F]国境到着者数/[V]日帰りを含む旅行者数、[T]宿泊を伴った旅行者数

表Ⅱ-2-21 香港基本情報

	2005	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2020
①人口(万人)*1	684	705	711	718	722	726	731	752
②香港人出国者数(万人)*2	7,230	8,444	8,482	8,528	—	—	—	—
③出国率(%) (②÷①)	1057.3	1197.4	1192.6	1188.0	—	—	—	—
④訪日香港人旅行者数(万人)*3	29.9	50.9	36.5	48.2	74.6	92.6	—	—
⑤出国者に占める訪日旅行者比率(④÷②)	0.4	0.6	0.4	0.6	—	—	—	—
⑥為替レート(円/香港ドル)*1,*4	14.2	11.3	10.2	10.3	12.6	13.6	15.5	—
⑦GDP成長率(%)*1	7.4	6.8	4.8	1.7	2.9	2.3	2.8	3.5
⑧1人当たりGDP(米ドル)*1	26,554	32,421	34,941	36,589	38,060	39,871	42,437	58,182
⑨中間所得層(5,000~35,000米ドル)比率(%)*5	59.0	51.7	47.8	45.6	—	—	—	—
⑩高所得層(35,000米ドル以上)比率(%)*5	58.2	64.7	68.1	69.7	—	—	—	—

資料：IMF(*1)、UNWTO(*2)、JNTO(*3)、FRB(*4)、Euromonitor(*5)
(注1) 斜体は推計値、(注2) ②香港人出国者数は日帰りを含んでいない、(注3) ⑥為替レートの2015年の数値は2015年1~6月の平均値

⑥タイ

タイ人出国者数は経済成長に伴い、年々拡大している。11年は大規模な洪水の影響で微減となったものの、12年には回復傾向を見せた(表II-2-24)。

タイ人出国者数の増加率以上に訪日タイ人旅行者数は大きく伸びている。方面別の旅行者数の推移を見ても日本の伸び率が目立っている(表II-2-23)。

旅行者数の増加は、12年の数次ビザの発給開始、翌13年7月のビザ免除の効果が大きい。13年は前年比74.0%増で、主要国・地域の中で増加率トップであった。14年、15年上期も引き続き増加傾向は継続しており、日本の存在感が増している(表II-2-4)。

旅行者の増加に伴い、14年はリピーター率が前年比1.6%減の58.7%であり、初訪日客が多く訪れたことがうかがえる(表II-2-22)。インセンティブツアーや展示会・見本市、国際会議、研修などの目的で訪日する傾向が比較的高い傾向にあるタイ人旅行者であるが、14年は観光レジャー比率が増加し、前年比10.2%増の67.9%に上った(表II-2-22)。

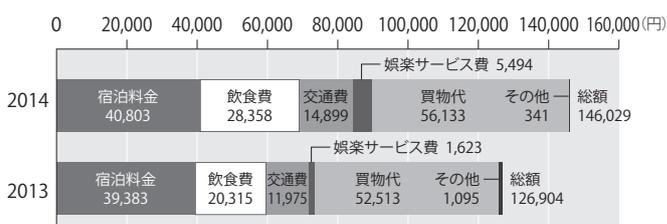
訪日タイ人旅行者の1人当たりの旅行支出は146,029円で、13年の126,904円から大きく伸ばした(図II-2-6)。特に目立つのは買物代で、アジアの中では中国、ベトナムに次いで3番目に多い結果となった(表II-2-5)。特に人気なのは「菓子類」で、購入率は72.9%に上る(表II-2-6)。

表II-2-22 訪日タイ人の旅行動向

	2013	2014	前年比
訪日タイ人旅行者数(万人)	45	66	45.0%
平均泊数(泊)	10.3	11.5	1.2
観光レジャー比率	57.7%	67.9%	10.2%
リピーター率	60.3%	58.7%	▲1.6%
ツアー利用率*1	26.5%	31.8%	—

資料：観光庁『訪日外国人消費動向調査25年、26年次報告書』
(*1) ツアー利用率は全体から個別手配を除いた比率。2013年と2014年では設問形式が異なる

図II-2-6 訪日タイ人の1人当たりの旅行支出



資料：観光庁『訪日外国人消費動向調査25年、26年次報告書』

表II-2-23 アジア各国・地域へのタイ人訪問者数 (単位：万人)

訪問先	基準	2010	2011	2012	2013
日本	NFV	21.5	14.5	26.1	45.4
韓国	NFV	26.1	30.9	38.7	37.3
台湾	RFV	9.3	10.3	9.8	10.4
中国	NFV	63.6	60.8	64.8	65.2
香港	RFV	45.0	48.0	50.2	53.5
フィリピン	RFT	3.7	3.8	4.1	4.8
ベトナム	RFV	22.3	18.2	22.6	26.9
カンボジア	RFT	9.6	11.7	20.1	22.1
マレーシア	NFV	145.9	144.2	126.3	115.6
シンガポール	RFV	43.0	47.3	47.8	49.7
インドネシア	RFT	12.4	14.2	15.0	10.1

資料：日本政府観光局(JNTO)『日本の国際観光統計(2013)』
(注) [N]国籍別統計、[R]居住地別統計/[F]国境到着者数/
[V]日帰りを含む旅行者数、[T]宿泊を伴った旅行者数

表II-2-24 タイ基本情報

	2005	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2020
①人口(万人)*1	6,515	6,734	6,764	6,796	6,830	6,866	6,884	6,931
②タイ人出国者数(万人)*2	305	545	540	572	—	—	—	—
③出国率(%) (②÷①)	4.7	8.1	8.0	8.4	—	—	—	—
④訪日タイ人旅行者数(万人)*2	12.0	21.5	14.5	26.1	45.4	65.8	—	—
⑤出国者に占める訪日旅行者比率(④÷②)	3.9	3.9	2.7	4.6	—	—	—	—
⑥為替レート(円/パーツ)*1	2.7	2.8	2.6	2.6	3.2	3.3	3.7	—
⑦GDP成長率(%)*1	4.6	7.8	0.1	6.5	2.9	0.7	3.7	3.8
⑧1人当たりGDP(米ドル)*1	2,707	4,736	5,111	5,385	5,670	5,445	5,612	7,271
⑨中間所得層(5,000~35,000米ドル)比率(%)*3	41.2	63.4	66.4	68.2	—	—	—	—
⑩高所得層(35,000米ドル以上)比率(%)*3	1.3	3.2	3.6	3.9	—	—	—	—

(注1) 斜体は推計値、(注2) ②タイ人出国者数は日帰りを含まない、(注2) ⑥為替レートの2015年の数値は2015年1~6月の平均値

資料：IMF(*1)、JNTO(*2)、Euromonitor(*3)

(4) 注目国・地域の動向

2014年、前述の主要6カ国・地域以外で訪日旅行者数の伸びで目立ったのは、フィリピン、ベトナムでそれぞれ前年比70.0%増、47.1%増と大きく旅行者を伸ばした(表II-2-4)。成長の背景には13年7月の数次ビザ発給開始、14年9月のビザ発給要件緩和の効果が大きい。ビザ発給数から見ても、中国に次いで短期滞在ビザ発給数が多かったのはフィリピンで、前年比で見ても74.1%増と大幅な伸びを示した。次いでインドネシア、インド、ベトナムと続いている(表II-2-25)。伸び率で見るとベトナムはフィリピンに次いで高い伸び率を示している。

成長の要因としてはビザ発給要件緩和以外に市場自体の経済成長が挙げられる。一般的に海外旅行者数は中間所得層比率の増加と比例的に伸びる傾向があり、目安として1人当たりのGDPが3千USドルを超える国・地域は、中間所得層の消費が期待できるといわれているが、フィリピンは2015年にその目安を超える見通しであり(表II-2-26)、中間所得層の拡大が訪日旅行を強く後押ししていると見られる。

ベトナムはフィリピンと比較するとビザ発給総数に占める短期滞在ビザの比率が低く、留学と技能実習のビザ取得が多い。ベトナムの1人当たりGDPが3千USドルを超えるのは20年の見通しであり、観光目的での訪日が増えるにはまだ少し時間を要すると見られる。

フィリピン、ベトナムに先駆けて12年9月に数次ビザ発給開始となったインドネシアは、12年以降ルピア安が続いていたことからフィリピン、ベトナムほどの伸びを示してこなかったものの、

1人当たりGDPは10年にはすでに3千USドルを超えており、GDP成長率も高い見通しとなっていることから、今後に期待が持たれる。

最近ビザ発給要件緩和策が採られた、あるいは予定されている国・地域の中でアラブ首長国連邦(13年10月数次ビザ発給開始)、ブラジル(15年6月同開始)、モンゴル(15年8月同開始)は、いずれも1人当たりGDPが15年の時点で3千USドルを超えていると見られ、これらの地域からのさらなる訪日が予想される。

(相澤美穂子)

表II-2-25 短期滞在ビザ発給数
(14年の発給数が5,000件以上の国・地域のみ)

	2013年	2014年	前年比
全体	1,553.4	2,528.8	62.8
中国	867.8	1,938.8	123.4
フィリピン	81.5	141.8	74.1
インドネシア	109.6	128.6	17.4
インド	49.4	59.0	19.4
ベトナム	36.2	55.5	53.4
ロシア	51.0	52.7	3.3
ブラジル	23.2	27.4	18.2
タイ	174.8	12.3	▲93.0
モンゴル	10.1	11.5	14.0
ミャンマー	5.1	7.7	51.7
スリランカ	7.0	7.2	2.8
南アフリカ	4.2	5.3	26.4

資料：外務省「平成25年、26年ビザ(査証)発給統計」

表II-2-26 最近ビザ発給要件緩和策が講じられた国・地域の訪日旅行者数、1人当たりGDP、GDP成長率の推移

	2005	2010	2013	2014	2015	2020	
フィリピン	訪日旅行者数(人)	139,572	77,377	108,351	184,204	—	
	1人当たりGDP(USドル)	1,209	2,155	2,791	2,865	3,037	4,554
	GDP成長率(%)	4.8	7.6	7.2	6.1	6.7	6.0
インドネシア	訪日旅行者数(人)	58,974	80,632	136,797	158,739	—	—
	1人当たりGDP(USドル)	1,404	3,178	3,680	3,534	3,511	4,772
	GDP成長率(%)	5.7	6.4	5.6	5.0	5.2	6.0
ベトナム	訪日旅行者数(人)	22,138	41,862	84,469	124,266	—	—
	1人当たりGDP(USドル)	700	1,297	1,902	2,053	2,233	3,226
	GDP成長率(%)	7.5	6.4	5.4	6.0	6.0	6.0
カンボジア	訪日旅行者数(人)	2,423	3,189	4,842	—	—	—
	1人当たりGDP(USドル)	471	782	1,018	1,081	1,146	1,637
	GDP成長率(%)	13.3	6.0	7.4	7.0	7.2	7.3
ラオス	訪日旅行者数(人)	1,542	2,209	3,243	—	—	—
	1人当たりGDP(USドル)	469	1,070	1,594	1,693	1,816	2,521
	GDP成長率(%)	6.8	8.1	8.0	7.4	7.3	7.3
ミャンマー	訪日旅行者数(人)	3,639	5,095	9,533	—	—	—
	1人当たりGDP(USドル)	288	998	1,113	1,221	1,334	2,380
	GDP成長率(%)	13.6	5.3	8.3	7.7	8.3	7.5
モンゴル	訪日旅行者数(人)	7,453	9,940	15,038	—	—	—
	1人当たりGDP(USドル)	1,150	2,608	4,353	4,096	4,195	5,645
	GDP成長率(%)	6.2	20.9	11.6	7.8	4.4	9.2
アラブ首長国連邦	訪日旅行者数(人)	641	2,175	2,892	—	—	—
	1人当たりGDP(USドル)	43,989	34,612	44,552	43,180	37,962	45,341
	GDP成長率(%)	4.9	1.6	5.2	3.6	3.2	4.1
ブラジル	訪日旅行者数(人)	17,201	21,393	27,105	32,310	—	—
	1人当たりGDP(USドル)	4,818	11,301	11,894	11,604	9,312	11,102
	GDP成長率(%)	3.1	7.6	2.7	0.1	▲1.0	2.5

(注) 斜体は推計値

資料：日本政府観光局(UNTO)「訪日外客数」「日本の国際観光統計2009年、2013年」、IMF